

令和 4 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立皆生養護学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>自己の生き方を探求していく人の育成 ～未来を生き抜く力を育むことを通して～</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1. 幼児・児童・生徒一人一人に応じた主体的な学びを実現する授業や教育活動の推進 2. 安心・安全、信頼される学校体制の構築 3. 分担と協働、意識改革による学校運営</p>
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初			評 価 結 果 (9)月					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
一人一人に応じた主体的な学びを実現する授業	小学部	「学ぶ・人と関わるのが大好きな子」を育てるための授業づくり	○昨年度、学部や学習グループで一斉に授業を持たない時間を設定し、授業づくりに活用することができた。 ○国語科と算数科については、重点化した指導内容が生活の中で生かされるように授業を検討し、児童の変容が見られた。	○幼児児童が「学ぶ・人と関わるのが大好き」と感じられる授業を行っている。	○年間通して教職員間で子どもの姿を話題にしたり日々授業を検討したりできるよう、5月中に幼児児童の「学ぶ・人と関わる」姿を可視化(絵や言葉に)する。 ○上記の姿につながる適切な実態把握や授業づくりをするため、授業づくり推進日や学部研修日の機会に、グループで検討したり指導案を作成したりする。 ○月1回のペースで学部や学習グループ内で授業を持たない時間を設定し、早めに周知する。	○5月に学習グループで幼児児童の「学ぶ・人と関わる」姿をイラストで可視化した。 ○7月にイラストで描いた姿に向かうための実態把握の研修を行った。 ○月1～2回、学部内で授業を持たない時間を設定した。 ○教職員同士で単元づくりや児童について語り合う時間が増えている。口頭アンケートでは「幼児児童がイラストで描いた姿に向かっている」と答えた教職員が61%であった。	C	○前期と同様に学部内で計画的に授業づくりのための時間を設定する。 ○前期にイラストで描いた幼児児童の姿につながっているか、指導案作成等の機会に確認しながら授業づくりをしていく。
	中学部	意欲的に学習に取り組む力を育てる授業の充実	○「何ができるようになるか」を明確にして、年間指導計画を作成した。学習グループで目標を意識した単元構想や授業づくりを行う必要がある。 ○コミュニケーションの手段の一つとして、ICT機器の活用に取り組んできた。教職員のICT機器の活用能力が向上してきている。	○生徒一人一人の目標を意識して、「何ができるようになるか」を明確にした単元構想や授業づくりを行っている。	○「個を語る会」などを用いて、生徒の実態を把握したり共通理解を図る。 ○学習や日常生活で生かせるように、「学習グループの会」や「学習グループの打合せ」で、生徒の目標を日頃から明確にしておく機会を設定する。 ○学部裁量日に、ICT活用や授業実践、教材紹介などができるような研修を設定する。	○実態把握や生徒情報等の共通理解の為に、「個を語る会」や学習グループの会を定期的に設定し、学習グループ内で様々な情報を共有しあうことができた。昨年と比較し、毎日短時間、毎週20分～1時間程度、月に1時間以上と、定期的に話し合いの時間を確保することができたが、授業の準備や連絡などに割かれることも多く、生徒の目標を意識して確認する時間が持てていなかった。 ○教務部と連携して、通知表や個別の指導計画の作成、年計の記録の際に、生徒一人一人の目標を再確認する研修を行った。	C	○学習グループの話し合いの中で、「何ができるようになるか」を視点に検討できるように、個別の指導計画ファイルを活用して、指導案や学習計画の検討、年計の記録ができるようにする。 ○今後の学部裁量日では、ICTを活用した実践や、授業実践を紹介し合える研修を設定する。
	高等部	生徒一人一人が「(将来のために) やってみたい」「できた」を感じる学びの保障	○昨年度、単一障がい学級・重複障がい学級I型の生徒については、生徒自身がチャレンジしたいという気持ちの変容が見られはじめた。生徒本人または授業者が、授業の目的「何のためにこの学習を行うか」やゴール「何ができるようになるか」を明確にした授業づくりを行う必要がある。	○生徒が「やってみたい」「できた」と感じられる授業づくりを行っている。	○学習グループの会の時間を増やし、授業づくりのための情報共有ができる時間の確保に努める。 ○生徒との対話に努め、生徒自身が学習に主体的に取り組めるようにする。 ○授業づくり推進部と連携し、円滑な授業研究の実施に努め、教職員一人一人が主体的に自らの授業力向上に取り組めるようにする。 ○授業づくりに生かせるよう、授業後の生徒アンケートを実施し、生徒の期待感や達成感を数値化する。	○週1回、放課後に新設した学習グループの会での情報共有や、授業づくり日のグループ協議を通して、個々が授業改善の取り組んでいる。授業研究をまだ実施していない教員も多く、今後更なる授業改善が期待される。 ○Google Formを活用し、単一・重複I型は毎時間の授業アンケートを実施している。授業の目標達成度はどの授業も90%以上の肯定的評価を得ているが、教科によってアンケートを実施できていない日があったり、アンケートを取っただけで結果を授業づくりへの活用に生かせていなかったりする。	C	○二学期中の全教員の授業研究を推進し、事後ミーティングで得た内容を三学期の授業づくりに生かせるようにする。 ○授業アンケートの結果をもとに、生徒との対話に努め、授業改善に生かす。
	教務課	実態把握表の項目についての整理、検討、周知	○学校経営方針の具体的取組の中で、重点目標に向けた方策として教務課が実態把握表の整理・作成を担当することが挙げられている。基本台帳に実態把握の項目と内容が入力されているが、指導に生かすやすくするために、整理や検討が必要である。	○実態把握表の項目が整理され、指導に活用している。 →【目標変更】 生徒の実態や配慮事項等を記載する書類が整理され、指導に活用している。	○指導に必要な実態把握の項目を精査するため、授業づくり推進部や自立活動部と連携して整理・検討をすすめる。 ○整理・検討した項目を活用しやすくするため、情報課や自立活動部と連携してデータベース等での運用を図る。	○実態把握表の項目について整理を図ったところ、現行の把握表は年度末に作成はするものの、見返す機会もなく活用されていない実態がわかった。 ○他に作成している書類にも実態や配慮事項を記入する欄があり、その内容を整理することで指導に活用できると考えられる。 ○学習計画に実態や配慮事項の記入を組み込むことで、指導での活用がしやすくなることと考えられる。	C	○より効率的に実態や配慮事項を指導に活用できるように、他に作成している書類を精査したり、学習計画上実用的な方法を検討したりする。 ○整理・検討した実態や配慮事項の活用について、データベース等を活用して周知と運用を図る。

様式 2

教育活動の推進	授業づくり推進部	<p>教職員自らが「やりた い！」と思 える授業づく りに取り組み、メ タ認知を基 に行う授業力 向上</p>	<p>○日々の忙しさに追われたり、自分の授業に自信が持てなかったりする教師が多数いる。 ○教職員自らが誰かに促されるのではなく、自分の授業力に向き合っ て研鑽等することで、結果幼児児童生徒にとっても楽しくて有意義な授業づくりができるような、仕組みづくりが必要である。</p>	<p>○教職員一人一人が自分の中にある「楽しい授業」「有意義な授業」を目指し、授業づくりや改善をグループ討議や授業公開等を通じて深めることで、子どもたちにとっても楽しくて有意義な授業を行っている。</p>	<p>○メタ認知を測るための自己評価アンケートを年3回行い、自らの授業力について考える機会を持つ。 ○学部縦割りのグループを作り、自分の授業について語る・人の授業について聞くことを繰り返 し体験する中で、授業づくりを深める仕組みを提案する。 ○年1回以上の授業公開、事後ミーティングの機会を作り、有効な意見交換の場を設定する。 ○外部講師に継続的な指導を依頼する。</p>	<p>○学部縦割りのグループで話し合いを深めた。最初は自分の実践について積極的に協議ができるグループは少なかったが、グランドルールを決めながら回数を重ねるうちに、誰もが会の中で一度は発言することができていた。有意義な授業についての話し合いには、深まりきれていないグループもある。 ○授業公開をした人は全体の4割程度にとどまっている。事後ミーティングでは、授業者とファシリテーションを行う部の担当者 とが改善したいポイント等を設定・共有することで、有意義な検討会につながるようになってきた。</p>	<p>○月に1度ある授業づくりの日がさらに有効な話し合いとなるよう、部員が声かけを行って準備を促す。また、グループの様子を他のグループに発信する機会を作り、有意義な授業について話し合いが深まる時間を設ける。 ○授業公開の後に行っている事後ミーティングの会でより深まった話ができるよう、授業者と授業づくり担当者で話し合いのポイントを精選して設定する。</p>
	進路指導課	<p>教職員のキャリア教育についての見識の深化と幼児児童生徒の生き方や可能性を模索するための実践の蓄積</p>	<p>○キャリア教育に関する基本的な知識は定着しつつあるが、キャリア教育の取り組みが十分にできた実感を持つことができていない教職員もいる。キャリア教育の視点を持ち、子どもたちの生き方の模索や可能性の拡大に向けて、各学部の段階に合わせたキャリア教育についての理解や実践事例の蓄積が必要である。</p>	<p>○各学部のキャリア教育のテーマを意識し、幼児児童生徒の生き方や可能性を模索するための実践を心がけている。</p>	<p>○各学部の実践事例に基づいたキャリア教育に関する自主研修会の企画・運営、キャリア教育と普段の学習との関連づけについて学部への周知をする。 ○各学部ごとのキャリア教育のテーマが分かるように、観点別系統表を作成し、教職員と共通理解を図る。</p>	<p>○各学部の実践事例に基づいたキャリア教育に関する研修会は未実施。進路指導通信にて情報発信をした。 ○進路指導参観日でキャリア教育に視点を当てた授業を実践する機会を設定した。 ○夏期休業中に、リモートによる施設・事業所見学を行った。 ○学部のテーマに基づいた観点別系統表の作成までは至っていない。 ○各種研修を通してキャリア教育の視点を持った指導について共通理解ができたが、各学部のキャリア教育のテーマに基づいた実践への結びつけについては不十分あると思われる。</p>	<p>○各学部で研修を行い、キャリア教育について認識を深めたり、学部のテーマについて共通理解したりする。 ○アンケートをとり、キャリア教育観点別系統表の土台となる、学部ごとのキャリア教育のテーマに係る重点項目を洗い出す。</p>
	人権教育・生徒指導部	<p>○人権感覚を養い、個人の価値を尊重し、他者と協働する態度の育成 ○生徒指導に係る校内の状況の把握と予防対策の推進</p>	<p>○人権教育に関する教職員研修のテーマが近年偏りがちになっている。教職員の人権感覚を磨いていくためにも視野を広げる必要がある。 ○教職員は日頃から幼児児童生徒の丁寧な観察を行っているが、引き続き積極的に問題行動の未然防止、早期発見、早期対応や指導の流れを徹底し、指導を行っていく必要がある。</p>	<p>○教職員の近年実施していないテーマでの人権教育研修会を実施し、人権を守る視点の理解を深めている。 ○学部や学習グループの中で幼児・児童・生徒のその日の様子が伝わっており教職員間で連携して的確な指導がなされている。</p>	<p>○教職員研修のテーマの見直しをする。 ○人権教育の年間指導計画の前期評価をもとに、後期の指導内容を充実させる。 ○本校の「いじめ防止基本方針」、「児童虐待の対応」や問題行動に対しての「指導の流れ」に関する教職員研修の場を設け周知を図る。 ○学校生活アンケートや日頃からの丁寧な観察、話しやすい関係づくりを心がけ幼児・児童・生徒理解や生徒指導に係る校内の状況を把握し、学部や学習グループで共有し、指導につなげる。</p>	<p>○近年実施していない同和問題をテーマに夏季休業中に教職員研修を行った。「人権学習の原点に戻ったようでよかった。」「変化していく社会の中で人権教育を考えるきっかけになった。」「自分の人権感覚をアップデートすると同時に、これからの社会を作っていく子どもたちに伝える、教えることの責任の大きさに気づくことができました。」等の意見があがっていた。 ○重点項目をもとに前期評価を行ったところである。 ○年度初めに生徒指導に関する教職員研修の場を設け、指導の徹底を図った。 ○放課後等の時間を使って日頃から学習グループで幼児・児童・生徒の様子を伝え合い、指導に生かしていくよう取り組んでいるところである。</p>	<p>○重点項目をもとに前期評価を行い、△（まだ不十分）となった項目については、11月の人権教育参観日の内容を含め、後期の指導内容について課題を解決するための方策を検討する。前期評価や参観日等の機会をとらえ、年間指導計画の見直しや内容の再検討等を教職員に働き掛け、後期の指導の充実に努める。 ○引き続き教職員が幼児・児童・生徒の様子や生徒指導に係る情報を共有できるようにし、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。</p>
保健指導部	<p>安心・安全のための取り組み、根拠のある説明力の向上</p>	<p>○校内にある各種マニュアルの整備を昨年までに行い、周知をしている途中である。 ○個々のマニュアル作成をするのに、医療からの情報とスムーズな動きの整理が整っていない場合がある ○医療的ケアや緊急対応等に必要な文書やマニュアルの区別や作成の意味の周知が整っていない部分もある。</p>	<p>○各種マニュアルを教職員間で共有して、用途に応じて参考にして対応したり、保護者に説明したりしている。</p>	<p>○校内にある各種マニュアルを整理し、その用途を整理したり使いやすいように見直したりする。 ○教職員に対しわかりやすい説明を部員が発信する機会（終礼、DB、サイト等）を持ち、周知を進める。 ○医療的ケアや緊急対応等の基本的な動きについて学校看護師と連携して整理し、校内周知を行う。</p>	<p>○校内の緊急対応や手順マニュアルの整備を行った。何のために作成するか、どのように提示すれば共有できるか等用途に応じた改善策を踏まえて部の中で整備できた。 ○学校看護師とも連携して見直し、修正を行い、担当者内で整備は行えたが共有するに留まり、校内への周知にいたっていない。</p>	<p>○教職員に対して、周知の場を設けたり、掲示板への掲載を行ったりする。変更点を伝えるだけでなく、なぜそうかという意味を伝えたり、具体的にイメージしながら学部に応じた形で提示したりする。</p>	

安心・安全信頼される学校体制の構築

様式 2

	<p>教育相談課</p> <p>見通しを持った校内支援の推進</p>	<p>○教育課程の検討や体験入学実施に向けての担任や学部の動きがわかりにくく、充実した検討や打ち合わせにつながらなかった。計画的に見通しを持って取り組む必要がある。</p>	<p>○教職員が、教育支援計画の作成、教育課程の検討、支援会議や体験入学の実施に対して、見通しを持って取り組むことができている。</p>	<p>○進め方の見通しが持てるよう、手順等を整理して示し、担任や主事と連携をとりながら情報を共有する。 ○日程調整等を早めに行い、余裕を持って進められるようにする。</p>	<p>○進め方の見通しが持てるよう、手順やスケジュールを整理し、関係者で情報共有しながら、適切な時期にこまめに情報発信を行った。 ○関係者で連携しながら、日程調整等を早めに行い、余裕を持って進められるように努めた。 ○今年度の教育支援計画作成についての提案で、記入方法や作成手順についての説明が不十分な点がいくつかあった。その都度確認して伝達したが、まだ整理しきれていない部分もある。来年度の教育支援計画作成に当たって、教職員がスムーズに作成できるよう、作成方法や手順の示し方について検討が必要である。</p>	<p>B</p> <p>○教育支援計画作成に当たり、わかりにくかった点や改善案などについてアンケートをとり、その結果をもとに作成方法や手順の示し方を工夫する。</p>
<p>専門性を発揮した教育活動の展開</p>	<p>情報教育課</p> <p>ICT機器の有効活用の推進</p>	<p>○昨年度の校内情報研修や相談対応などの取り組みから、教職員のICT機器の操作、活用するための知識能力は、ある程度身につつき、教育活動や校務についても活かしていこうとする雰囲気ができてきた。ただ、活用していくためのベースとなる環境（機器の管理・情報共有・業務改善のためのシステム）の面でまだ整備が必要な部分がある。</p>	<p>○教育活動、校務においてICT機器を十分に有効活用するための情報発信・提案や環境整備（機器の管理・情報共有・業務改善のためのシステムの整備等）が行われ、ICT機器が有効活用されている。</p>	<p>○教職員のニーズ等に応じた、ICT活用等に関する情報を積極的にわかりやすく発信したり、方法等を提案したりする。 ○ICT機器を活用しやすい環境整備（機器の管理・情報共有・業務改善のためのシステムの整備等）を行う。</p>	<p>○ICTに関する外部研修の内容、PCやタブレットの便利な使い方等について、掲示板を使うなどして情報提供を積極的に行った。集約したニーズを元に、Googleドライブ（クラウド）に関する研修を行った。 ○教職員からのICTに関する相談に迅速かついいねに対応した。相談内容・解決法や、今後のネットワーク環境の変化や準備、校務用PCへスムーズに移行するために必要な情報を掲示板やクラスルームを使って発信し共有した。指導者用タブレット導入の際、学校としての方針を明確にし、運用していけるように務めた。</p>	<p>B</p> <p>○ICTサポート支援員を活用するなどして授業等で有効なアプリについての情報発信を行う。新しい校務用PCに関して、Office 365等の有効な使い方について情報発信を行う。 ○今後継続して行けるような方法を検討した上で、機器の管理に関するシステムづくり等の環境整備を進める。</p>
	<p>自立活動部</p> <p>○プールの特性やプールを活用した自立活動の指導内容、期待される効果等の理解の促進</p>	<p>○コロナの影響でプールを使った学習活動が3年間中断している。それにより、プールを活用した自立活動の指導の意義理解が薄れている。あわせて、実際に入水する経験が無いことにより、介助・指導の技術の向上や伝承ができていない。</p>	<p>○プールを活用した自立活動の指導の学習計画を作成するために、プールの特性やプールを活用した自立活動の指導内容、期待される効果等の理解が、年度当初よりも深まっている。</p>	<p>○自立活動の視点でプール学習を考えることができるように、校内研修や自立活動通信等を通して、プール学習を題材にした内容を取り扱う。 ○プールを活用した自立活動について他校の取り組みを調査したり、県外の研修会に参加したりする。 ○学習グループや学部で、子どもの実態とプールを活用した自立活動の指導目標や指導内容を検討する機会を設ける。</p>	<p>○自立活動に関する研修を4月当初から実施してきた。プールを活用した自立活動の指導につながることを意識した内容を取り扱った。7月に講義と実技を組み合わせた職員研修「プールを活用した自立活動の指導」を企画して実施した。 ○8月に実施した事後アンケートでは、「児童生徒に必要な力、身につけて欲しい力は何かという自立活動の視点からプールの特性を活かして授業を作っていきたい」「自立活動として何をねらうか、そのためにはどんな方法があるのか、実技を踏まえて実践できてよかった」等の感想が得られた。 ○自立活動通信で取り上げる題材が多かったため、プール学習に関わるそれを前期に取り上げる計画が組めなかった。 ○他校の取り組みについての調査、学習グループや学部での内容検討は前期に行う時間がなく、実施できなかった。</p>	<p>C</p> <p>○自立活動通信の中で、プール学習を題材にした内容を1回は取り扱う。 ○学習グループや学部でのプールを活用した自立活動の指導について幼児児童生徒の実態に応じた具体的な検討を進めるために、検討会までのスケジュールや検討内容の項目化などを行い、校内体制の整備を重点化する。その中で、必要があれば他校との情報交換を行う。プール指導に知識のある自立活動部員は、検討会や普段の自立活動の学習に参加して具体的な情報交換をする。</p>

様式 2

<p>社会参画活動等とおしした共生社会 実現へ向けた取組の推進</p>	<p>戦略事業部 ○共生社会を意識した各行事や交流等の取組の推進</p>	<p>○地域の公民館等の学校外部と交流を設定したいがコロナ禍で直接交流するのが困難な状況にある。</p>	<p>○各行事や交流後に、保護者または交流相手から「交流を通して障がいに対する理解が深まった」「教育活動でどんな力をつけたいか等が伝わった」と肯定的回答や感想が多く寄せられている。</p>	<p>○行事等では、人数や場所、換気や健康チェック等の感染防止対策を徹底し、安全に実施できるようにする。 ○外部との交流においては「障がい理解」「共生社会」を意識した交流内容や打合せ(動画の活用等)をする。コロナ禍における適切な交流手段(オンライン等)を活用する。 ○目標の達成度が客観的に把握できるようなアンケート項目を作成する。</p>	<p>○6月のスポレクや8月の地域オンライン交流(公民館)では、保護者や交流先の各公民館より「教育活動でどんな力をつけたいかが伝わった」等について8割以上の肯定的回答が寄せられた。 ○外部との交流(地域公民館オンライン交流や、わくわく体験「フラダンスを楽しもう」、特別支援学校向け旅介チャンネル「東武動物公園」「旭山動物園」オンラインツアーなど)では、障がい理解や共生社会を意識した内容を設定した。また多目的ホールに交流の様子を掲示し啓発に努めた。</p>	<p>B ○9月下旬よりコロナの警戒レベルが注意報になったが、引き続きコロナ禍で直接交流するのが困難な状況であるので、「感染予防対策の徹底」と「状況に適した交流体験の設定」を目標とする。 ○交流相手からメッセージをいただき、本校の子どもや教職員が受け取ることができるようにする(掲示など)</p>
	<p>総務部 業務の効率化と平準化の促進</p>	<p>○掲示板等を活用した情報の一斉共有、会議設定日の固定化による見通しある業務の進め方等、業務削減につながる取り組みを行った。 ○月45時間、月平均30時間の時間外業務を行う教員数は年度初めに比べ減少したが、解消には至らなかった。</p>	<p>○教職員が学校全体の業務削減に主体的に取り組み、自分のできることを一つ以上行っている。</p>	<p>○毎月の時間外業務の記録と、衛生委員会等から情報収集し、教職員間での業務の偏りや、個人内で月による業務の偏りが無い把握する。 ○学部内業務や、分掌業務等、例年どおりの業務の見直し、平準化への取り組みについて話し合う時間を設ける。 ○教員でなければならない仕事と、教員でなくてもよい仕事を洗い出し、ワークセンター等へ移行できる仕事は移行する。</p>	<p>○毎月の時間外業務記録等から、個人別・月別の時間外把握はできたが、業務の偏りによるものかつかめていない。 ○学部、分掌で取り組みの見直しをそれぞれ行っている。平準化に特化した時間をとることができていない。 ○今まで教員がしていた教室掃除、掲示、文書配布、消毒作業等ワークセンターへ移行し、教員の業務削減につなげることができた。</p>	<p>C ○時間外の業務内容を把握したり、聞き取りをしたりして、時間外の理由が業務の偏りによるものか把握する。 ○衛生委員会の委員と相談、協同し平準化に向けた取り組みを行う。 ○ワークセンターとも相談しながら、引き続き業務の切り出しに努める。</p>
<p>その他</p>	<p>事務部 教育環境及び施設・設備の適切な管理</p>	<p>○施設・設備の老朽化による修繕の必要性または安心安全な教育環境の整備及び特色ある教育活動の支援のためにも中長期的な計画策定が必要である。</p>	<p>○幼児・児童・生徒にとってよりよい環境づくり、生徒を中心にした教育環境の充実を図る。 ○本来あるべき姿に近づけられるよう、幼児・児童・生徒を中心に活かし、効果的な予算執行を行う。 ○学校全体の動き(方向性)を見ながら業務に取り組む。 ○安全・安心な教育環境であるよう心がける。</p>	<p>○予算状況について随時教職員へ情報提供し、計画的な予算執行に努める。 ○予算執行については、必要性を精査し、早期に事業効果が発揮されるよう計画的な執行に努める。 ○施設修繕については、教育委員会で策定された長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理し、優先順位をつけて予算要求をしていく。 ○新型コロナウイルス感染症対策予算は必要であり、別枠予算を含め学校運営費予算から効率的に執行していく。</p>	<p>○予算執行状況について教職員へ情報提供をしきれていない。 ○指導充実事業予算により公式ポッチャシートを購入した。 ○理科教育設備整備費等補助金により、人体骨格模型他を発注済み。 ○管理棟、教室棟に続き、令和5年度予算に特別教室棟の屋上防水改修及び外壁塗装、サーバー移設等を予算要求したところ。 ○急遽の施設修繕について、適宜臨時要望し、追加で予算配分され今後施工予定。(多目的室照明器具改修他) ○通学バスリース事業で新車両を令和5年4月1日納車で契約していたが、メーカーのエンジン認証不正問題により納車時期が遅れる見込み。</p>	<p>C ○9月末時点での執行状況を確認し、決算見込みをたて、教職員へ情報提供していく。 ○予算執行については、必要性を精査し、早期に事業効果が発揮されるよう計画的な執行に努める。 ○施設修繕については、教育委員会で策定された長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理し、優先順位をつけて予算要求をしていく。 ○新型コロナウイルス対策衛生用品購入等事業予算を活用して効率的に執行していく。 ○通学バスリースについて、他メーカー車両で早期に納車ができるよう契約先と調整を図っていく。</p>

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し

[100%] [80%程度]

[60%程度] [40%程度]

[30%以下]